

保健福祉システム部会

平成29年度業務報告会

部会活動状況

平成30年 2月16日
部会長 高橋 弘明

© JAHIS 2018

アジェンダ

1. 国の政策動向

2. 保健福祉システム部会の体制

3. 平成29年度の取り組み状況

4. 平成30年度の取り組み方針

1. 国の政策動向

未来投資戦略2017

未来投資戦略2017では、Society 5.0の実現に向けて、5つの戦略分野を指定し、その筆頭が「健康・医療・介護」分野

未来投資戦略2017

I. Society 5.0に向けた戦略分野		
<p>我が国の強みに政策資源を集中投資</p> <p>(i) モノづくりの強さ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ものづくりの現場がある ② データ取得に必要なセンサー・デバイスの強み ③ ロボットなどものづくりの強み 	<p>(ii) 社会課題の先進性・大きさ</p> <p>高齢化に伴う労働人口減少、環境・エネルギー問題など、社会課題に新たなニーズが蓄在</p>	<p>(iii) リアルデータの取得・活用可能性</p> <p>実世界のリアルデータを大量に蓄積</p> <p>例：国民皆保険に基づく健康・医療情報、工場設備の稼働データ等</p>
<p>1. 健康寿命の延伸</p> <p>【データ活用基盤の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在バラバラになっている健康・医療・介護データを個人個人が生涯にわたって一元的に把握できる仕組みの構築【2020年度から本格稼働】 <p>【保険者・経営者による「個人の行動変容の支援強化」】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保険者に対する予防シナリオ強化(後期高齢者支援金の加算・減算率の引上げ(↑+0.23%・▲0.049%→±10%)等) 各保険者の取組状況(加入者の健康状態・医療費・健康への投資状況等)の見える化(成績表)と経営者への通知、健康経営による生産性の向上。 <p>【遠隔診療・AI診療・実用化】</p> <ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医等による対面診療と組み合わせた効果的・効率的な遠隔診療の促進(次期診療報酬改定において位置付け) AI開発・実用化の促進 (AI開発用のクラウド環境の整備・認証等) AI活用、遠隔診療の的確な支援(次期以降の診療報酬改定等での位置付けを目標) <p>【自立支援に向けた科学的介護の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> データ収集・分析のデータベース構築【2020年度の本格運用開始を目指す】 効果のある自立支援の促進 (次期介護報酬改定において位置付け) 介護ロボット等の導入促進 (次期介護報酬改定において位置付け、人員・設備標準見直し) <p>【革新的な再生医療等製品等の創出促進、医療・介護の国際展開の推進】</p>	<p>2. 移動革命の実現</p> <p>【世界に先駆け実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> トラックの隊列走行の実現 (【2020年に高速道路(新東名)で後続無人での隊列走行を実現、2022年に商業化を目指す。】) 地域における無人自動走行による移動サービスの実現 (【2020年の実現を目指すし、全国10箇所以上の地域で公道実証】) 小型無人機 (ドローン) による荷物運送の実現 (【2020年度に都市部での本格化に向け、補助者を認識しない目視外飛行に係る機体や操縦者等の要件の明確化】) 安全運転サポート車の制度整備・普及促進 (先進安全技術の標準策定等) <p>【データの戦略的収集・活用、協調領域の拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高精度三次元地図作成 (25cm単位) に向けた仕様・仕組の策定【来年度中】 5Gの実現・自動走行等への活用 (【2020年までにサービス開始】) サイバー攻撃対応の車載セキュリティの強化【安全性評価の仕組み等の工程策定】 <p>【国際的な制度間競争を見据えた制度整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な自動走行(レベル3以上)に向けた、政府全体の制度整備の方針策定 (「システムによる運転」に係る安全基準、道路交通法等ルール、責任関係等) 	
<p>3. サプライチェーンの次世代化</p> <p>Connected Industries: IoT等によって様々なモノをネットワーク化し、製造や社会の稼働率に資する新たな付加価値を生み出す産業革命</p> <p>【データ連携の制度整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スマート保安」(IoT-データを活用した異常の事前予測)に対応する保安規制の高度化 複数事業者が連携した省エネのための法制度整備 <p>【データ連携の先進事例の創出・展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の複数企業間のデータ連携の実証、国際標準化 「取り分けデータ」(AI)に似たモデル構築 (まひり自動車・自動車部品から開始) 	<p>4. 快適なインフラ・まちづくり</p> <p>【インフラ整備・維持管理の生産性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「I-Construction」の対象拡大(橋梁・トンネル等へ、中小事業者・自治体へ)、公共工事の3次元データのオープン化 (利活用ルール策定) 【2025年度までに建設現場の生産性2割向上】 インフラ点検・災害対応ロボットの開発促進 (Drohneの利用増加に及した要求性能の策定等) 	<p>5. FinTech</p> <p>【オープンイノベーション/デジタル化の推進、モヤシの加速】</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀行によるオープンAPI(※)の推進 クレジットカードデータの利用に係るAPI(※)連携 ※APIとは、金融機関やクレジットカード会社のシステムに接続するための仕様のこと。APIを通じた連携により、FinTech事業者は金融機関やクレジットカード会社と安全に連携してサービスを提供できる。 新たな決済サービスの創出(電子決済の普及・普及につなげるブロックチェーン技術の活用)を通じた中小企業等の成長の促進、(低コスト化) FinTech実証実験ハブ(仮称)を通じたチャレンジの容易化 海外当局との協力枠組拡大、フィンテック・サミットの開催

厚生労働省でデータヘルス改革推進本部が立ち上がり、健康・医療・介護のデータの有機的な連結に向け「ICTインフラの抜本改革」などの取り組みが始まる。

国民の健康確保のためのビッグデータ活用推進に関する
データヘルス改革推進計画・工程表

本計画のデータヘルス改革の中での位置づけ

- 現在、厚生労働大臣の下に、「データヘルス改革推進本部」を立ち上げ、健康・医療・介護のデータの有機的な連結に向けた「ICTインフラの抜本改革」や「ゲノム解析やAI等の最先端技術の医療への導入」を具体化。
- 具体的に、主に次の7つのサービスを国民に提供する。

I 全国的なネットワーク構築による医療・介護現場での健康・医療・介護の最適提供

- ① 全国的な保健医療ネットワークを整備し、医療関係者等が円滑に患者情報を共有できるサービス
 - ▶ 初診時などに、保健医療関係者が患者の状況を把握し、過去の健診データや治療履歴等を踏まえた最適な診断や診療の選択肢を提供できる環境を日本全国で構築。
- ② 医療的ケア児(者)等の救急時や予想外の災害、事故に遭遇した際に、医療関係者が、迅速に必要な患者情報を共有できるサービス
 - ▶ 医療的ケアが必要な障がい児(者)などが、安心して外出でき、災害等にも確実に対応できる環境を。

II 国民の健康確保に向けた健康・医療・介護のビッグデータ連結・活用

- ③ 健康に関するデータを集約・分析し、個人(PHR)や事業主(健康スコアリング)に健康情報を提供するサービス
 - ▶ 国民や事業主に、健康管理の意義や重要性を、分かり易く訴えかけ、健康増進へ行動変容を促す。
- ④ 健康・医療・介護のビッグデータを個人単位で連結し、解析できるようにするサービス
 - ▶ 疾病・介護等の予防策や新たな治療法の開発、創薬等のイノベーションの実現。

III 科学的介護の実現

- ⑤ 介護の科学的分析のためのデータを収集し、最適サービスを提供(世界に例のないデータベース構築)
 - ▶ 要介護高齢者の自立、日々の生活を充実。
 - ▶ ケアだけでなく認知症のケアも推進。

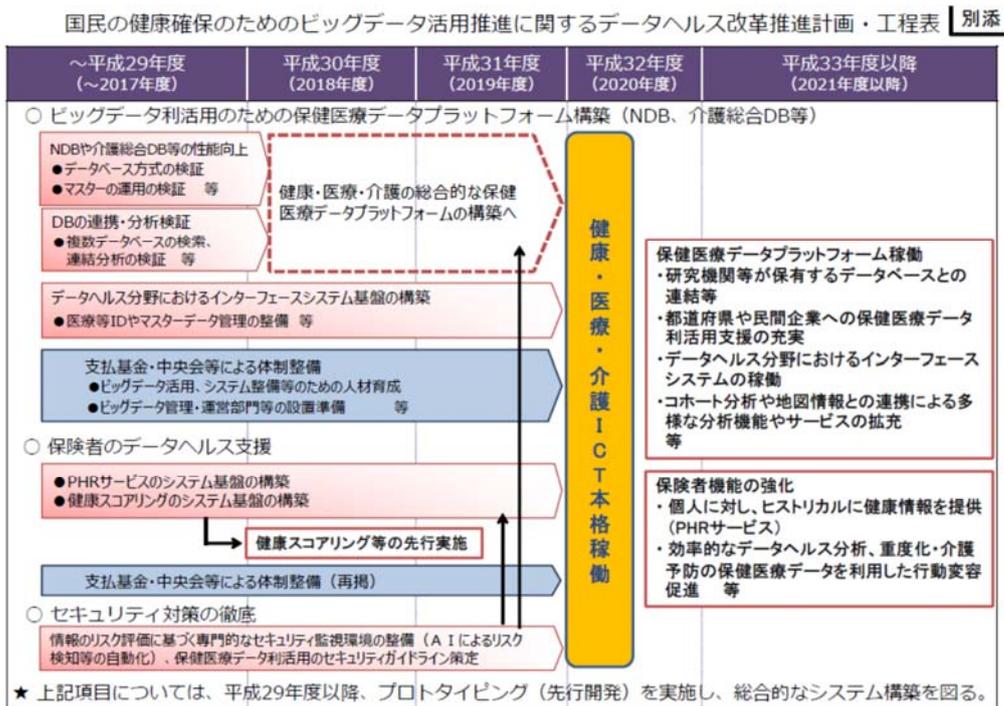
IV 最先端技術の導入

- ⑥ がんゲノム情報の収集、医療関係者等が利活用できるサービス
- ⑦ AI開発基盤をクラウドで研究者や民間等に提供するサービス
 - ▶ 国民に最適で、効率的かつ個別化された医療を提供。がんとの闘いに終止符を。

➡ 本計画は、健康・医療・介護のビッグデータ活用に関する施策(③・④)について、その具体的な活用方策、運用・管理の在り方等を提示するもの。その他の施策も、本部の検討を更に加速させ、提示していく。

出典:第2回 データヘルス改革推進本部 (資料1 国民の健康確保のためのビッグデータ活用推進に関するデータヘルス改革推進計画)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000173037.html> ※平成29年7月28日

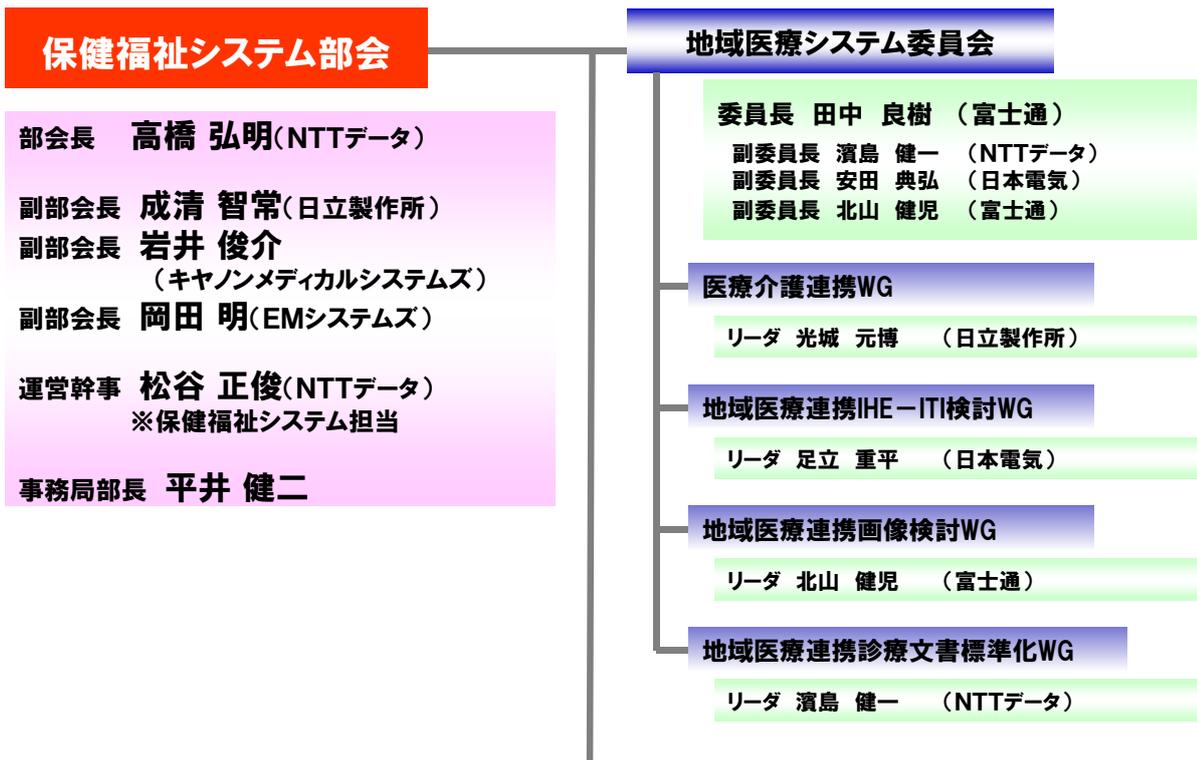
2020年度を目処に健康・医療・介護ICTの基盤を本格稼働させる目標

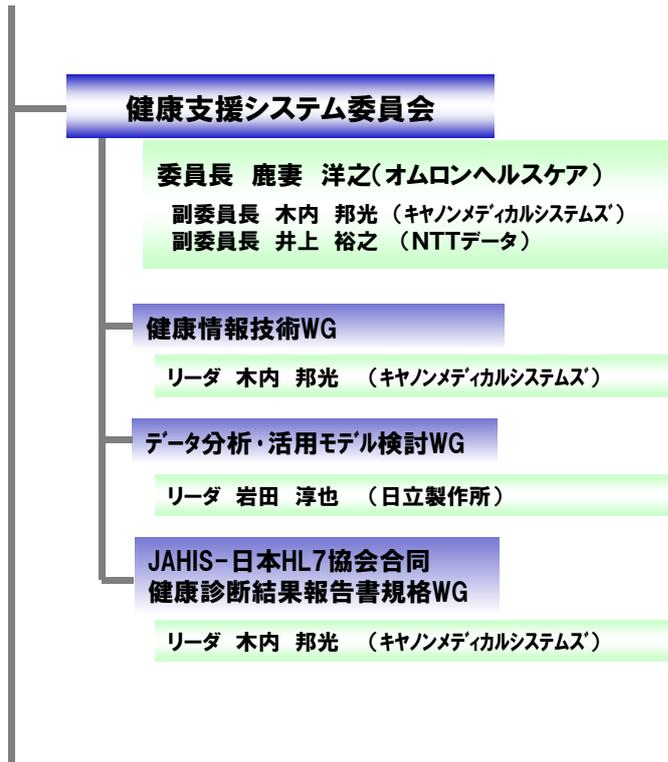


出典:第2回 データヘルス改革推進本部 (資料1 国民の健康確保のためのビッグデータ活用推進に関するデータヘルス改革推進計画)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000173037.html> ※平成29年7月28日

2. 保健福祉システム部会の体制

JAHIS 保健福祉システム部会の体制（1/3） H30.1現在



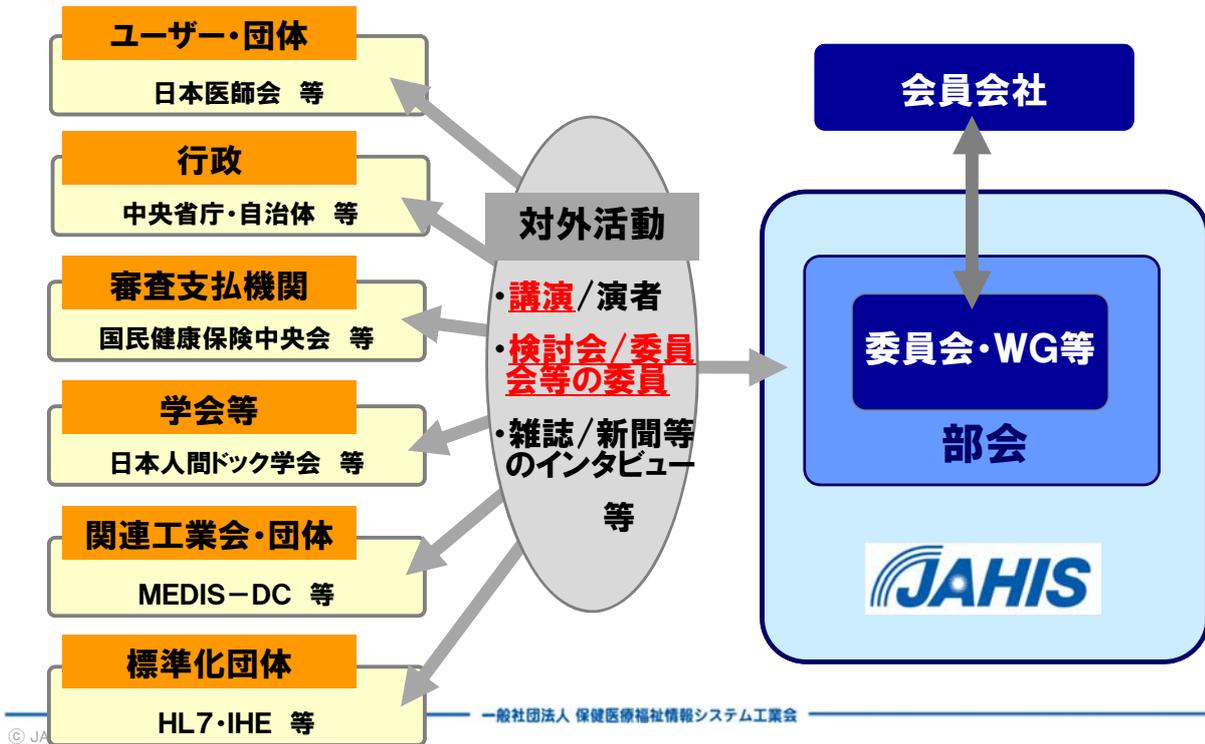


3. 平成29年度の取り組み状況

JAHIS 平成29年度の取り組み方針

- (1) 地域の保健・医療・福祉・介護の連携に不可欠なICTの活用を前提とした**地域包括ケアシステムの推進のため、施設間や多職種間での連携データの標準化・普及やPHRの実現**に向け、関係省庁事業への参加や行政機関、関係団体への積極的な提言を実施し、業界のビジネスの創出を図る。
- (2) 予防・健康管理の推進のため、引き続き関係機関・団体と連携し検討会等に委員を派遣する等、**各種健診関連システムの普及やデータヘルス計画の効果的な実施に資する活動・提言を実施する**。またヘルスソフトウェア、ビッグデータ分析、PHRの活用等に関連した調査や提言を行い、健康情報活用ビジネスの創出・拡大を図る。
- (3) 平成28年度から開始された番号制度への各種対応に加え、現在検討が進められている医療等分野における**番号制度について、関係機関と連携を図り、情報システム分野の専門家として効率的なシステム構想を提言**していく。
- (4) JAHIS他部門の委員会等との連携による積極的な情報収集に基づく**会員への情報提供、関係省庁・関係機関・学会への積極的提言**を実施する。

保健福祉システム部会では、国の制度変更に対応した新たな実証事業、検討会等に参画するとともに、各種セミナー・講演会・勉強会等を開催し会員への情報提供を実施



© JA

一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会

13

JAHIS 活動状況(委員活動1)

■厚生労働省／「介護のシゴト魅力向上懇談会」への委員派遣

対応期間:2017年4月～2018年3月

対応内容:介護の仕事や職場の魅力向上を更に進めるため、業務プロセスの改善とテクノロジー(介護ロボット・ICT等)の活用による業務負担の軽減、生産性の向上等について、先進的な現場の実践を踏まえた議論を行う。

対応者 :金本委員長(福祉システム委員会) 他

■厚生労働省／「介護サービスにおける情報通信技術活用実証研究事業」への委員派遣

対応期間:2018年1月～3月

対応内容:介護サービス事業者間における情報の共有化に当たって必要となる情報(記録)の現状と課題及び今後のあり方について検討を行う。また、介護事業者間連携を進めるための情報共有の仕組みの構築に向けた検討を行う。

対応者 :金本委員長(福祉システム委員会) 他

■厚生労働省／「地域における医療・介護の連携強化に関する調査研究」への委員派遣

対応期間：2017年11月～2018年3月

対応内容：健康・医療・介護分野におけるマスターデータの分析調査等を行い、ビッグデータ活用推進に向けた提言を取りまとめる。

対応者：光城WGリーダー(医療介護連携WGリーダー)

■総務省／「クラウドEHR事業」へのオブザーバ派遣

対応期間：2017年5月～7月

対応内容：「クラウド型EHR高度化事業」において、各地域で実装するEHR実装の共通仕様をIHE-J技術仕様およびJAHIS実装ガイドベースでとりまとめる検討会議に対し、策定内容に関して標準化の観点から助言を行う

対応者：森田委員長(地域医療システム委員会) 他

■国民健康保険中央会／「障害者総合支援事務処理システム検討会」への委員派遣

対応期間：2017年2月～9月

対応内容：①介護保険法に基づく制度改正にかかる事務処理に関する検討

②事務処理システムの標準的仕様についての検討

③その他、事務処理の運用に関し必要となる検討

対応者：金本委員長(福祉システム委員会) 他9名

■国民健康保険中央会／「障害者総合支援審査事務研究会」への委員派遣

対応期間：2017年4月～2018年3月

対応内容：障害者総合支援法並びに児童福祉法の改正法が成立。平成27年12月の社会保障審議会・障害者部会からの提言を踏まえ、審査支援機能の強化に向けて市町村等における審査事務の現状等を確認する。また、給付費の審査をより効果的・効率的に実施できるよう、審査事務について当研究会で検討する。

対応者：金本委員長(福祉システム委員会)

■国民健康保険中央会／「介護保険事務処理システム検討会」への委員派遣

対応期間:2017年1月～9月

対応内容:国民健康保険中央会(中央会)に設置される検討会に参加する。

- ①介護保険法に基づく制度改正にかかる事務処理に関する検討
- ②事務処理システムの標準的仕様についての検討
- ③その他、事務処理の運用に関し必要となる検討

対応者:金本委員長(福祉システム委員会) 他

■国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構／「保育事業のIoT技術利用によるデータベース及びプラットフォームの検討会」への委員派遣

対応日時:2017年11月～2018年3月

対応内容:子ども子育て分野について、保育園の現場の生産性の向上及びIoT技術活用の取り組みが遅れており、また市町村と保育園のデータのやり取りが紙ベースが主流のため、データ連携の標準化が求められている。業務プロセスの検証や情報の共有化等について業務効率化に向け検討する。

対応者:金本委員長(福祉システム委員会)

■日本人間ドック学会／第三期特定健診・特定保健指導の円滑な実施に向けた説明会

対応期間:2017年7月

対応内容:特定健診・特定保健指導健診データ取り扱いおよび費用請求等に関するシステム変更の解説

対応者:鹿妻委員長(健康支援システム委員会)

■愛知県健康づくり振興事業団／愛知県特定健診・保健指導研修会

対応期間:2017年7月

対応内容:平成30年度に向けた特定健診・保健指導とデータヘルス計画の準備
「健診・保健指導データとレセプトデータ」分析のエッセンス
ITネットワークを主としたスマートヘルスケア

対応者:鹿妻委員長(健康支援システム委員会)

■医療経済研究機構／シンポジウム参加

対応期間:2017年9月

対応内容:医療・介護連携ICT分野におけるJAHISの調査研究・標準化活動を紹介したうえで、「イノベーション創出型ヘルスケア産業」をテーマにパネルディスカッションを行う。

対応者 :光城WGリーダー(医療介護連携WG)

■関西学院大学／人間福祉学部講義「人間福祉情報論」へのゲストスピーカー

対応期間:2017年12月

対応内容:人間福祉学部の講義「人間福祉情報論」にて、ゲストスピーカー(講師)として参加し、介護・福祉とICT等について講演を行う。

対応者 :金本委員長(福祉システム委員会)

【地域医療システム委員会】

地域医療連携における経過記録構造化記述規約 Ver1.0

→ JAHIS標準 (2017年8月)

地域医療連携における経過記録、サマリ、レポート、メモ(在宅時)の連携ニーズが高まっている。各診療文書で共通であるべき情報は「診療文書構造化記述規約共通編Ver1.0」でまとめられており、今回は連携ニーズの高い経過記録及びメモ(経過記録の一部として)について、個別編規約として定義を行った。

IHE-ITIを用いた医療情報連携基盤実装ガイド本編 Ver.3.1

→ JAHIS技術文書 (2018年1月)

地域医療情報連携基盤を構築するために、厚生労働省標準規格「HS031 地域医療連携における情報連携基盤技術仕様」を用いることを定め、何に留意すべきか、規格をどのように解釈すべきかなど、どのように実装するかを明確に記述した。

【健康支援システム委員会】

健康診断結果報告書規格 Ver2.0

→ 作業項目提案（更改作業に着手）

2015年3月に制定された健康診断結果報告書規格V1.0の更改作業に着手。各種の健康診断結果報告書を総合的にカバーした健診データファイルフォーマットの標準化。2017年5月の「特定健診情報ファイル仕様説明書V3に伴う対応。

4. 平成30年度の取り組み方針

JAHIS 平成30年度の取り組み方針(案)

- ◇ 「全国保健医療情報ネットワーク」を活用した**地域の保健・医療・福祉・介護の連携、また施設間や多職種間での連携データの標準化・普及**に向けた活動・提言
- ◇ 「保健医療データプラットフォーム」及び**保健医療ビッグデータ活用推進**に向け、健診関連システムの普及やデータヘルス計画の効果的な実施に資する活動・提言
- ◇ 新被保険者番号、オンライン資格確認等を活用した**新たな保健医療サービス**実現に向けた活動・提言

- 積極的な情報収集に基づく会員への情報提供
- 関係省庁事業への参加や行政機関、関係団体への積極的な提言



健康で豊かな国民生活を保健医療福祉情報システムが支えます

ご静聴、誠に有難うございました。

今後とも保健福祉システム部会へのご支援をよろしくお願い致します。